

令和6年度 富士河口湖町総合教育会議資料

富士河口湖町立教育センター
所 長 渡 邊 敏

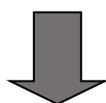
1 はじめに

※富士河口湖町立教育センター

○平成17年に開設

○目的：研修，研究，開発及び啓発を行い，教育振興，児童・生徒の健全な育成に寄与する。

○設置条例第3条を基本に，8項目の事業を展開



○平成27年度

- ・富士河口湖町中央公民館1階に移転
- ・今年度，10年目を迎えた



2 教育センター設置条例における事業について

第3条 教育センターは，次に掲げる事業を行う

- (1) 教育に関する専門的，技術的事項の調査研究に関すること
- (2) 教育関係職員の研修に関すること
- (3) 教育に関する情報の収集，整理，保管及び活用に関すること
- (4) 教育相談に関すること
- (5) 前各号に掲げるもののほか富士河口湖町教育委員会が必要と認める事項



具体的に9項目の取り組みを行っている

①教育に関する専門的，技術的事項の調査研究に関すること

* 理科・環境教育副読本，社会科副読本の作成（基本的には4年に一度改定）

令和6年度は理科・環境副読本の改訂年にあたる

・企画委員会の開催（代表7名） ・編集委員会（各校一人）

・専門機関との連携（富士山科学研究所，町生涯学習課文化財担当，世界遺産センター，河口湖フィールドセンター等）

* 富士山学習の充実（富士山科学研究所，富士山世界遺産センター等との連携）

・「河口湖新倉掘抜学習」 ・出前授業

・「防災教育プログラム化」

* 新学習指導要領に向けての調査研究

・「小学校外国語」「社会に開かれた教育課程」の実現のための支援

- ②学習開発に関すること
- *地域を生かした体験活動（センターのプログラム）
 - ・「木工の学習」：図工3・4年生（西湖野鳥の森公園）（13回）
 - ・「役場見学」：社会科3年生（学校教育課を中心に各課と連携）（5回）
 - ・「河口湖新倉掘抜」：社会科4年生（生涯学習課文化財担当）（10回）
- ③教職員の研修に関すること
- *町単・期採・代替職員等の研修会（3回）
 - *支援員対象研修会（1回）
 - *新転入・新採用教職員等の郷土学習会（夏季休業中：町内施設の見学・学習会）
 - *スキルアップ講座
 - ・外国語研修会（1回）
 - ・ICT研修会（情報教育研修会1回 職員への研修4回）
- ④教育に関する情報の収集，整理，保管及び活用に関すること。
- *教育センターだよりの発行（月1回）
 - *各小中学校の年間計画・教育課程・学校要覧・防災計画等の収集，整理
- ⑤必要な研究組織の設置と運営に関すること。
- *運営協議会（教育センターの運営について，年に2回検討を行う）
 - *富士山学習研究会（5回）
 - ・各学校より1名の協力者を得て，企画運営を行う。
 - ・富士山学習の充実に向けての組織的研究
 - *特別支援教育研究会（特別支援コーディネーターの連携と研修）（1回）
 - *外国語教育研究会（1回）
 - ・小学校外国語科・外国語活動，英語教育の小中連携についての研究
- ⑥教育相談に関すること。
- *令和5年度の相談件数：728件（令和6年度10月現在482件）
 - ・町SSW，就学相談担当等との連携
 - ・学校と連携したケース会議の実施
 - ・保護者面談の実施
- ⑦幼保，小，中，高，大・関係機関等との連携に関すること。
- *保小中連携協議会の開催
 - *各保育所への訪問（情報交換）
 - *町SSW，就学相談員との連携
- ⑧代替派遣に関すること
- *代替職員の授業派遣：令和5年度：要請103回，派遣61回
令和6年10月まで 要請58件，派遣37件
- ⑨その他目的達成に必要なこと。 *不審者対策
- ・青色灯パトロールカーの巡回時間帯，コース等各学校とりまとめ（町地域防災課との連携）

3 具体的な取り組み（特に力を入れている取組・連携等）

(1) 相談業務（教育相談）

① 2023年（令和5年度）の状況について

不登校関係	608件	発達相談	1件
学習相談	1件	問題行動	12件
先生との関係	5件	心と身体相談	5件
進路相談	1件	卒業生等	95件

合計：728件

② 2024年（令和6年4月～10月まで）の状況について

不登校関係	363件	発達相談	2件
友人関係	3件	先生との関係	2件
心と身体相談	1件	進路相談	1件
卒業生等	56件		

合計：430件

③ 10月現在の実績：11名が利用

（小3年：2名 小5年：1名 小6年：1名 中1年：1名 中2年：5名
中3年：1名）

※学校と相談を密にして対応していく。（子供を中心に据えて考えていく）

※あくまでも、イニシアチブ（主導権）は学校にある。教育センターは、相談・支援が役目（学校と家庭をつないでいる。）

※専門機関との連携（町就学支援員，SSW，町子育て支援課等）

※ケース会議（支援会議）への参加（必要に応じて）

※保護者相談（子どもの状況，進路等，情報共有，同じベクトルで支援）

(2) 富士山学習（防災教育）の充実 ～専門機関との連携について～

① 町立教育センター研究員会（富士山学習研究会）

防災に関する授業研究の実施（小立小学校・勝山小学校・勝山中学校）

② 中学校区引き渡し訓練への協力

③ ジュニア防災士講座への協力

①町教育センター研究員会（富士山学習研究会）について（研究員は各校1名：12名）

※研究のテーマ

・世界文化遺産である「富士山」を児童生徒に伝えていくための授業実践を
どう進めるか

◎富士山学習研究会ではこの5年間、防災教育に力を入れて研究を進めている

<p>令和2年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ●西浜小防災授業（自然災害・火山噴火） ●防災教育3年間の計画立案 	<p>令和3年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ●勝山小親子防災授業 ◇町内の引き渡しマニュアル統一（町教頭会） ◇ジュニア防災士講座（町地域防災課） 	<p>令和4年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土砂災害の防災授業（町内5小学校） ●防災教育の教育課程への位置づけ ●富士山と防災に関するアンケート実施 ●勝山小親子防災授業 ◇勝山中学校区引き渡し訓練 ◇防災自由研究作品展（町地域防災課） ◇ジュニア防災士講 	<p>令和5年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ●溶岩流についての防災授業（小立小） ●溶岩流実験のできる教員の育成と育成のための指導資料作成 ●勝山小親子防災授業 ◇勝山中学校区引き渡し訓練 ◇湖北中学校区引き渡し訓練 ◇勝山中防災教育ワークショップ（富士山研） ◇ジュニア防災士講座
---	--	---	--

<p>令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ①溶岩流についての防災授業（小立小） ②溶岩流実験のできる教員の育成とより実践に近い指導資料の作成 ③勝山小親子防災授業 ◇勝山中学校区引き渡し訓練 ◇湖北中学校区引き渡し訓練 ◇防災クロスロードの実施（勝山中） ◇ジュニア防災士講座
--

①溶岩流についての防災授業（小立小）

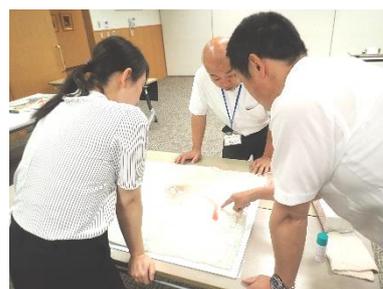


担任主導で授業を進める



実験を通して学ぶ

②溶岩流実験のできる教員の育成とより実践に近い指導資料の作成



（6月）研究者による講義 ⇒ 教材研究 ⇒ 自主研修 ⇒ （10月）研究授業で実践



指導案や指導資料の検討

実験の前に指導する内容

授業の「つかむ」で、担任が以下の2点について指導を行う

- 溶岩について学ぶ
流れて流れるのも、冷えて固まったのも溶岩
自分たちの住んでいる地域の足下は溶岩
- 火口について学ぶ
富士山は山頂の火口からだけでなく麓でも何回も噴火したことがある
↓
もし富士山が噴火すると、私たちの住んでいるところに溶岩流が流れてくる可能性がある。

実験解説資料を参考



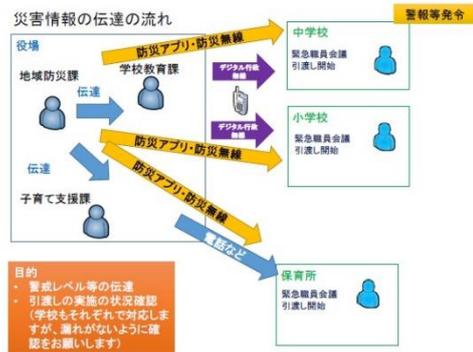
2023溶岩流実験2

実験解説動画の活用

②中学校区引き渡し訓練への協力について

2024年 中学校区引渡し訓練

	日時	小学校	保育所
勝山中学校区	5月24日15時～	勝山小学校 西浜小学校 豊茂小学校	勝山保育所 足和田保育所 富士ヶ嶺保育所
河口湖北中学校区	5月28日15時～	河口小学校 大石小学校	河口保育所 大石保育所



今後に向けて(学校)



「コーライティングシート」: 静電気で壁や窓に張り付きます。

- 5月28日の北中学区では、雨の中行われました。雨での引渡しなどもあるため、様々な状況での引渡しを考慮する必要があります。
- 北中学区でライティングシートを使ってもらいました。窓などに貼ることで、簡易なホワイトボードにすることができますので、活用してみてください。
- 残っている児童・生徒の対応、ご自身のお子様への対応など
- 連絡先にFAX番号がなかったため、今後入れたものをお送りします。

今後に向けてなど

- 湖南中学校区でも、まずは富士山噴火警戒レベル3を想定した訓練を実施してみたいかでしょうか。
◆次に日程を合わせてみるなど。
◆大嵐小学校は第4次避難エリアのため、今後避難確保計画を策定する必要があります(現在役場でたたき台を作成中)。富士山噴火を想定した引渡し訓練を実施して、計画の検証なども必要になります。
- 勝山中学校区と北中学校区で日程を合わせてみるなど(ふじぞら支援学校の受け入れも考慮して)。
- 引渡し訓練で必要と感じたものや情報(入手、伝達)を準備しておくとういことです。
- 引渡し時間が長期間にわたる際の対応を考慮しておきましょう。
- 学校間の連絡について、フローを再検討する。
- 先生方自身の災害に関する知識・経験を得る機会を設ける(臨機応変に判断するためには知識と経験が必要になります)。

③ジュニア防災士講座への協力について

小学生40名が参加



町の防災について学ぶ



大嵐地区を探索



備蓄食料で昼食



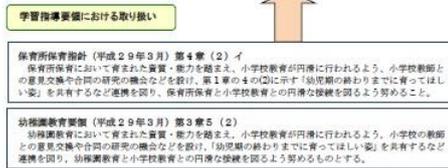
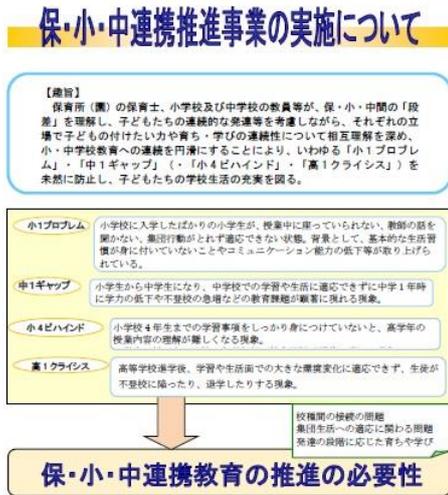
防災マップ作り



発表ふりかえり

(3) 幼保小中連携の充実

①富士河口湖町保小中連携協議会の開催。事務局：教育センター



小学校学習指導要領（平成29年3月）第1章総則第5の2（イ）抜粋
 他の小学校や、幼稚園、認定こども園、保育所、中学校、高等学校、特別支援学校などとの間の連携や交流を図る。

※国語、音楽、図画工作において幼児教育での学びを意識して指導する
 ※第1学年入学当初においては、生活科を中心とした総合的な指導を行う

中学校学習指導要領（平成29年3月）第1章総則第5の2（イ）抜粋
 他の中学校や、幼稚園、認定こども園、保育所、小学校、高等学校、特別支援学校などとの間の連携や交流を図る。

高等学校学習指導要領（平成29年3月）第1章総則第6条の2（イ）抜粋
 他の高等学校や、幼稚園、認定こども園、保育所、小学校、中学校、特別支援学校及び大学などとの間の連携や交流を図る。

■保・小・中連携って、何ですか？
 幼児期、小中学校の教育は、乳幼児期の家庭での一人一人の育ちを受けて保育所での保育・教育がスタートし、さらに、その成果を受けて、小中学校教育が始まるという一連の流れの中で行われます。「保・小・中連携」は、この一人一人の子ども達の育ちや学びのつながりを理解し合い、長い目で子ども達の育ちや学びを見ようとする取り組みのことです。

■具体的に、どんなことをすればいいですか？
 ○行事や生活科、総合的な学習の時間などの授業へ幼児が参加し、一緒に活動する。
 ○保育参観や授業参観を相互に行う等、教師・保育士合同研修会を開催する。
 ○保・小・中PTA合同の講演会や学習会を開催する。
 ○施設の間接等により継続的に連携・交流する。 等の取り組みがあります。

★保・小・中連携を進めるにあたっては、趣旨を理解し、それぞれの段階で、実際に即したことからの取り組みをはじめましょう。

★本町では、町全体で連携を推進している。特に教育的支援を必要とする児童・生徒の望ましい学びや生活の在り方を実現するには、縦・横の連携を図る中で、富士河口湖町を担う子どもたちの健やかな育成をめざして、取り組んでいきたいと思います。

中学校区ごとに担当者会議を開催し連携を図っている。

②河教幼年教育研究部会と保育所の連携

- ・ 保幼小情報交換会の実施（6月18日(火)）
- ・ 保育所の視察(8月8日(木))
- ・ 架け橋プログラムの作成(町内で統一したプログラムを目指す)

共通の視点	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 期待する子供	<p>●身近な環境に主体的に関わり、自分の方で探求したり、工夫したりし、諦めずやり続けようとする。</p> <p>●身近な事象に積極的に関わり、多様な関わりを通して、学び（遊び）に向かう。</p> <p>●周囲の人と関わり合い、経験や考えを言葉で伝えたり、相手の話を注意深く聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむ。</p>																							
2 遊び・学びのプロセス	<p>●遊びを通して、多様な仕方での関わり、思考を促し、想像力を養い、想像に導かれた行動や関わり方を発見する。</p>											<p>●学びことへの関わりがあり、多様な学習内容について理解を深めて（習得の学習活動や協働的な学習活動をし、学ぶ力）。 ●「こういうことなんだね」「あ、こういうことなんだね」 ●「あ、こういうことなんだね」 ●「あ、こういうことなんだね」</p>												
3 生活のプロセス	<p>●自ら「思いやん、ようちえんは、あこがれ！」「たんぽぽがっさい！」「あこがれ！」「たんぽぽがっさい！」 ●自ら「思いやん、ようちえんは、あこがれ！」 ●自ら「思いやん、ようちえんは、あこがれ！」</p>																							
4 園・所、小学校で展開される遊びや生活・学習活動等	<p>5歳児のカリキュラム</p> <p>○明るく伸び伸び行動したり、進んで運動したりすることへの興味や意欲につながる遊びや生活</p> <p>○身近な人と関わり、工夫したり、協力したりして一緒に活動することを楽しむ遊びや生活</p> <p>○身近な環境に楽しみ、発見を楽しんだり、考えたりすることにつながる遊びや生活</p> <p>○言葉に対する感覚を豊かにする遊びや生活</p> <p>○生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ遊びや生活</p> <p>○基本的な生活習慣が身に付く遊びや生活</p>											<p>1年生のカリキュラム</p> <p>○一人一人が安心感を持ち、新しい人間関係を築けるようになる活動【園で観たんだ活動（手遊び、歌、読み聞かせ等）を取り入れる。また、園で観たんだ時間設定で活動を仕組む。】</p> <p>○生活科を中心とした総合的・関連的な指導による単元構成</p> <p>○日常生活とつながる学習活動</p> <p>○学びの必然性を生み出す教材の工夫</p>												
5 関係者の関わり・役割	<p>・ 幼児の想いに寄り添う。</p> <p>・ 幼児にとっての教材である環境を構成する。</p> <p>・ 環境の下で幼児と適切な関わりをする。（活動の理解者、共同作業者、共演者、信頼を形成するモデル、遊びや課題解決の援助者）</p> <p>・ 幼児同士とのつながりが深まるよう活動を奨励する。</p>											<p>・ 幼児期の遊びを、安心をもち、成長・自立を支える。（一緒に活動を楽しむ、温かく見守る、子供の自発性を促す）</p> <p>・ 幼児教育の内容や支援等を、小学校の授業と連携して取り入れる。（資質・能力）を見取る。</p> <p>・ 児童それぞれの育ちや学びを引き出す。</p>												
6 環境の構築・環境づくり	<p>・ 幼児が関わる環境（人、もの、出来事、時間、空間等）を教材とし、整備・構成する。</p> <p>・ 幼児の主体的な遊びを大切にしつつ、どのような成長を願うのかといった先生の意図を環境に込める。</p>											<p>・ 幼児教育現場における環境の工夫を取り入れ、指導の充実を図る。</p> <p>・ 授業で扱う学習教材だけでなく、子供が関わる環境（掲示物、教材の置き場所）等も学びに影響する環境とし、教材を工夫し、環境づくりを行う。</p>												
7 関係者の交流	<p>・ 1年生との交流会</p> <p>・ 5歳児の1日入学</p>											<p>・ 5歳児との交流会</p>												
8 関係者の交流（保育者、教師、管理職、行政等）	<p>・ 保育参観や授業参観を日常的に実施する（先生の関わり、環境構成、幼児・児童の育ちや発達等を学びあう）</p> <p>・ 合同の研究会（4月、6月）共通の視点をもとにカリキュラム、環境、交流等について検討する。</p> <p>・ 豊橋による伝達と引継ぎ（12月～2月）</p>																							
9 家庭や地域との連携	<p>・ 子供の成長を共有し、資質的に育つよう支援する。 保護者が安心感をもてるよう支援する。 生活のリズムを整え、基本的な生活習慣が身に付くよう連携して取り組む。</p> <p>・ 地域全体で子供の育ちや学びを支えるよう、関係者が連携して活動を進める。</p>																							

(4) 情報教育研修の充実

1. 目的

町内小中学生が ICT 活用能力を継続的, 系統的に習得できるようにするために, 町内小中学校に勤務する教職員に ICT に関する研修の機会を計画的に設ける。

2. タブレット端末研修計画

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
R 4		スタートアップ研修【2時間】 12/27(火)1/10(火)				R 5			コア研修前半【3時間】				
		管理職研修【40分】 ・校長会 1/16(月) ・教頭会 12/15(木)							スタートアップ研修【2時間】 8/16(水)			ミライシード研修【2時間】 8/10(木)	
R 5		コア研修後半【3時間】 12/27(水) 1/9(金)				R 6			コアプラス研修【3時間】				
									スタートアップ研修【2時間】 8/7(水)			コア研修前半【3時間】	
R 6		コア研修後半【3時間】				R 7			コア研修前半【3時間】				
		コアプラス研修【3時間】 1/7(火)							コアプラス研修【3時間】			Canva 研修【3時間】	
		FigJam 研修【3時間】											
		Canva 研修【3時間】 1/7(火)											
		ミライシード研修【2時間】 12/26(木)											

3. 研修実績 (令和4年～令和6年8月まで)

- | | |
|--------------------|------------------|
| ○スタートアップ研修受講者 103名 | ○コア研修受講者 332名 |
| ○コアプラス研修受講者 69名 | ○ミライシード研修受講者 40名 |
| ○OPE研修受講者 17名 | ○管理職研修受講者 28名 |

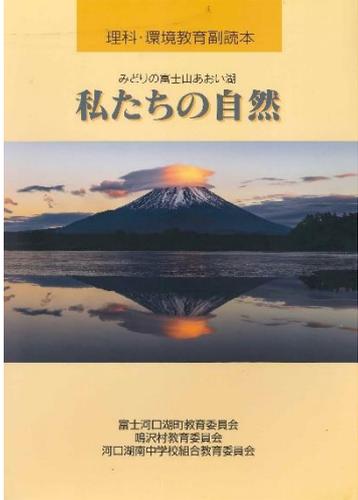
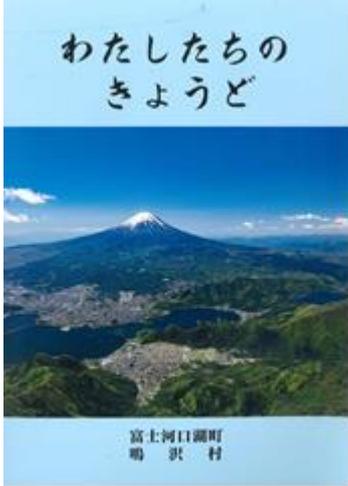
○Canva 研修 42名

○FigJam 研修 13名

○延べ受講者数

644名

(5) 理科・環境教育副読本，社会科副読本の作成

理科・環境副読本	社会科副読本
 <p>発行予定部数 1063部</p>	 <p>発行部数 1332部</p>
<ul style="list-style-type: none">・ 小学校5年～中学校3年で使用・ 令和5年～6年に改訂作業・ 令和6年度末改訂版発行予定・ 令和7年度～令和10年度分の児童数冊子をまとめて作成・ PDF版を町HP上で公開予定	<ul style="list-style-type: none">・ 小学校3～4年社会科で使用・ 令和4年3月改訂版発行・ 令和5年度～令和8年度分の児童数冊子をまとめて作成・ PDF版を町HP上で公開・ 令和7年度～改訂作業

4 おわりに

平成17年に開設された教育センターは，平成27年度に中央公民館へと移転し，町役場の他の部署及び他機関との連携を密にできるため，業務を充実させることができる。今年度も学力充実や新しい教育課題に対応するため，9項目の事業を展開している。

学校の多忙化を避けつつ必要な業務を行うために，既存の組織や事業との連携を積極的に進めている。先に挙げた富士山学習研究会，保小連携，情報教育研修等は，事業に参加する関係者がそれぞれの役割を果たすことで，負担軽減を考慮しながら成果をあげることができた。教育センターのコーディネートの役割は事業を推進させる上で重要である。

一方，これまで継続してきた事業の充実に加え，今日的な課題への対応としての新たな事業や町教委からの要請による業務等が加わり，教育センターが担う事業は多岐にわたっている。教育センター自身の業務の精選と再構築も大きな課題である。

今後も，教育センターとして何を行うことが児童・生徒にとって必要かを大前提とし，富士河口湖町の教育課題や学校のニーズに応えた事業を行い，現場に生かす教育センターを目指し取り組みたい。